

## 令和4年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和4年8月2日（火）午後1時30分～3時30分

会 場：鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8

出席者：【鳥取市政懇話会委員（11名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 西垣豪委員

小川原秀哉委員、影井克博委員、景下明美委員、武田恭明委員、谷口真澄委員、  
綱本信治委員、西山信一委員、野村康典委員、山本ルリコ委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、尾室教育長、高橋企画推進部長、  
河井経営統轄監、橋本健康こども部長、大野経済観光部長、田中農林水産部長  
戸田企画推進部次長兼政策企画課長、平田政策企画課長補佐

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

本日は大変お忙しい中、第1回鳥取市政懇話会にご出席いただき、感謝申し上げます。日頃より、皆様方には鳥取市政の推進に格別なるご理解・お力添えを賜っており、改めてこの場をお借りし感謝申し上げます。

今回の議題は、「政策公約（3期目）の取組方針について」とさせていただいている。新型コロナウイルス感染症が相変わらず大変な猛威を振るっており、現在第6波から第7波と言われる状況にある。鳥取市保健所管内においても、年明けの1月3日に、763例目、764例目の陽性例が確認され、それ以降、連日陽性例が発生しており、先週には通算で10,000件を超え、昨日の段階で10,744件となった。一昨年に新型コロナウイルス感染症の陽性例が発生してから数えてみると、この1月～7月までの7ヶ月間で10,000件という大変な陽性例・感染例が発生している状況がある。鳥取市保健所を中心に、健康こども部、危機管理部、また全庁で日々対応しており、鳥取県の皆さん、また、この東部4町の皆さんにも応援をしていただいて、一丸となって、今懸命に感染が拡大しないように頑張っているところである。連日200例を超えるような陽性例が出ているが、これが更に広がらないように頑張っていかなければならないと思っている。

また、円安、物価の高騰、原油の高騰、そしてこれに加えて、ロシアのウクライナ侵攻による国際経済の変動等々、自治体を取り巻く状況も大変厳しい状況が続いている。また、国内外の情勢も目まぐるしく変わっていきこうとしており、これから地方自治体の将来を見据えて前進をしていく、明るい未来を切り開いていく、そのことを市民の皆様にお示しすることが求められていると考えている。10年20年30年後、またその先を見据え、将来を切

り開いていくことが私の使命であると考えており、多くの市民の皆様の力添えをいただきながら、しっかり引き続き努めて参りたい。

本日は、市政の進展に向けて、皆様方から忌憚のないご意見・ご提言を賜りたい。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 3 会長あいさつ

○児嶋会長

本日の議題は市長公約について、特に「子育て支援」と「農林水産・経済対策」という2つのテーマを挙げている。議事がスムーズに進行するようご協力をお願いしたい。

### 4 新委員紹介

### 5 副会長選任

○副会長 西垣豪委員（会長により指名）

### 6 議事

市長政策公約（3期目）の取組方針について

- (1) 政策公約の概要について ……資料1
- (2) 子育て支援について ……資料2

(説明)

(意見交換)

#### ○小川原委員

育児について、昨今の状況が変わってきていると思う。コロナの蔓延によって、各社で在宅勤務の制度が導入されてきていると思うが、弊社では、若い世代の社員が在宅勤務を行った時に、育児に直面したことがきっかけで育休を取得する流れが出てくるなど、育児のあり方がニューノーマルに即したものと変わってきているのではないかと感じた経験がある。今回、鳥取市の子育て施策があるが、ターゲットとして母親だけでなく、父親への支援を前提にしたサービスや情報提供があると良いと思う。例えば、産後の母親が1人で悩みを抱え込まないように、パートナーである父親に向けて、母親がどのような苦しみを持っているか、こういう支援をした方がいいというような情報発信を行ったり、これをきっかけに料理をやってみないかと案内したりするなど、ターゲットを男性に変えると、さらにニューノーマルに即した支援になるのではないかと。

#### ○山本委員

オンラインの仕組みはとても良いと思った。男性に限らず、多様に子育てに関われるような

仕組みがあると素晴らしいと思う。先ほどの小川原委員のお話は良い提案だと思った。スマホで「鳥取市 子育て」と検索すると、「鳥取市子育て支援ホームページ」にアクセスすることができたが、鳥取市の子育てアプリをダウンロードできるよう、ホームページの上の方にQRコードを表示するなどしてほしい。様々な人がアプリをダウンロードして、ここに関われるようになると良いのではないかと思う。また、鳥取市は自然豊かで子育てしやすいところとして注目されており、移住の候補地にもなっていると思うが、若い人たちに鳥取市はそういう場所だと認識してもらうこと、また、今鳥取にいる子どもたちが、常に赤ちゃんや子どもたちと周りの人たちが接している場面を見ている環境があると良いと思う。そのためにも、オンラインの仕組みがもっと広まると良いと思う。また、これとオンライン診療が繋がるとすごく良いと思う。スマホで「鳥取市 子育て オンライン診療」と検索すると、それぞれの医療系アプリや関連サイトにはアクセスできるが、鳥取市系列のところからはなかなかアクセスしにくいいため、それが一元化できると、より安心して、子育てに不安を抱えている方への支援につながるのではないかと思う。

#### ■橋本健康こども部長

まず、子育てアプリの方は、妊婦の方が初めて市の窓口に来られた時にご案内し、登録していただいている。ホームページでもう少し分かりやすく案内があった方が良いというご意見をいただいたので、また工夫をさせていただきたいと思う。オンライン診療については、各医院でやっておられるところもあるが、そちらのご案内を市のホームページでは行っていない状況である。コロナ対応の中で、陽性の方が在宅療養をされている際に、オンライン診療を行うようになってきている。そのような経過もあり、医療機関の方もオンライン診療が慣れた診療方法になってきているため、医師会とも相談をさせていただいて、こういったものがより進んでいくような取り組みを行っていきたいと思う。

#### ○西山委員

学生の地元就職をどのように進めたらいいかについて学生と意見交換を行った時に、県外出身の学生から「鳥取市は子育てがしやすい」と聞いたことがあり、驚いた。学生にもそのような情報が入っていることが分かったところである。学生が鳥取市に定住するかどうかを考える時にも大きな要素になる。具体的な施策は、対象者向けの広報になるかもしれないが、幅広い世代に広報するのも良いかもしれない。ぜひ学生向けに、こんな取り組みを行っているとPRしてほしい。また、男性向けの子育て事業は、確かにあまり発想されていないかもしれない。大事な視点だと思う。大学で男性職員がどれくらい育休を取得しているか調べたが、とても少ない状況であり、そういう働きかけをしようと話し合っているところである。意識改革も含めて、そういったことに取り組んでいく時代ではないかと思う。

#### ○影井委員

男性の育休に関する話があったが、鳥取いなば農業協同組合には多くの女性職員がおり、10人以上は必ず育休をとっている。ここ1～2年、男性職員も育休を取り始めたところである。そういった意味では、鳥取いなば農業協同組合も子育て支援をしていきたいと考えてい

る。

#### ○景下委員

鳥取市は安心子育てナンバー1と言っても過言ではないぐらい、非常に良いまちだと私は実感している。もっとこのことをPRしてほしい。また、この資料には記載されていないが、鳥取市ではブックスタート事業として、6か月の乳幼児健診の時に、読み聞かせボランティアの方が健診の合間に読み聞かせを行っており、鳥取市から絵本が2冊贈呈される。他県から来られた方もその事業に感動されていた。男性の子育て参加については非常に喜んでいいる。大きな会社ほど、そういったことを推進していただくと大変嬉しく思う。

#### ○武田委員

今、孫が子育てをしている。子育ては若い人がするものだという雰囲気を感じるが、ご年配の方が経験をしていることもある。ご年配の方が、近所の子どもの面倒をみる等、そういうことがしやすいようになれば良いと思う。他人の子どもをみるのは難しい面もあるが、子どもを地域で見守るといいうことができれば良いと思う。

#### ○谷口委員

空き家対策に非常に興味を持っている。例えば、私が住んでいる田舎の集落には50戸ぐらいの世帯があるが、恐らく20年後には半分ぐらいになり、空き家だらけになってくると予想される。中心市街地の方もそういった状況になってくるのではないかと思う。田舎の家は築100年以上の場合もあり、そうなってくると、例えば道路沿いにある空き家が崩れても対処できず、小さな道路が通れなくなったり、人的被害を及ぼしたりする可能性がある。全国的な問題だと思うが、そういうことに対して鳥取市はどのように考えているか。

#### ■深澤市長

空き家対策に関しては、大きく二つあると思う。まず、空き家に少し手を加えたりリフォームしたりして、利活用するという。また、老朽化が著しい場合は、空き家は個人の資産であるため、基本的には所有者の負担によって解体撤去をしていただくが、それがなかなかできず、非常に危険な状況である場合には、勧告・命令、そういったことを経て代執行により、行政で除却をすることも可能になっており、実施した例もある。利活用については、空き家登録バンクの制度もあり、実際にマッチングした例もある。また、中心市街地では、鳥取市は平成26年から空き店舗のリノベーションに取り組んでおり、研修会等を開いたりしている。実際にリノベーションを行い、活用されている物件もある。これから人口減少・高齢化が進んでいくため、空き家対策は非常に重要な課題である。鳥取市としても、これからはしっかりと老朽化する空き家への対応、また、利活用ができる空き家については、所有者の方の了解をいただいて利活用の話を進めていきたいと考えている。

#### ○谷口委員

近所に築100年以上の家があり、利活用を希望しているという話も聞く。そういうことを相談できる組織はあるか。

## ■深澤市長

都市整備部の方が空き家を担当している。またご意見をいただければと思う。

## ○児嶋会長

鳥取商工会議所でも色々と空き家対策を行っている。商工会議所として一番考えているのは、今後どんどん田舎の家が減ってくるため、鳥取市内に高層マンションを作り、田舎に住む人が田舎に持っておられる土地と高層マンションの一室を等価交換し、田舎に住む人に鳥取市内に住んでいただく方法である。マンションの下には病院やコンビニなど便利なものをつくり、住みやすい形にしたい。これからは、中心になるまちに集約していかないと難しいと思う。商工会議所と鳥取市で、力を合わせて取り組んでいきたいと思っている。

## ○綱本委員

現在、核家族が多い。子育てに関して、これからも核家族だけで子育てを行っていくことが定番となってくるのか。

## ○山本委員

綱本委員と児嶋会長のお話をお伺いして、まちなかに集約をすることで、血が繋がった家族だけでなく、保育園や学校・病院等があつて、そこにコミュニティが生まれるというのはすごく素敵だと思った。また、都会に出ていった家族が子どもを連れて帰ってくる時、子どもが少し大きくなってくると、実家はトイレが汚く寒いから帰ってきたくないといい、帰ってこないことがある。しっかりしたリノベーションを行い、不動産として長く使える建物に少しずつ変えていく中で、住み心地はどうかというフィジカルの面も整える必要があると思う。先ほどのまちなかをリノベーションしながら住み続けていくというお話を聞き、そういうことが期待できる取り組みではないかと思った。

## ○野村委員

鳥取市の子育て支援に関する資料を見ると、出産から比較的短い期間の支援のことが書いてあるが、それ以降、例えば幼稚園・保育園を含む期間の子育てについて、先ほど核家族が多い中で結局親だけで子育てを行うのかという話があつたと思うが、地域で見守ったり、子育てサークルといった団体や官民の力も借りたりして、組織的に取り組んでいければ、より子育てしやすい環境になるのではないかと思う。

## ○児嶋会長

先ほどのマンションの例について、病院やコンビニなど色んな便利なものがあり、さらに広場があることによって、お茶を飲んだり話をしたりする場所が生まれる。一番重要なのは、コミュニティの場所で、先ほどの核家族の対策にもなると思う。そういうまちづくりをやっいていこうということで今鳥取市と一緒にあって、コンパクトシティ、あるいはスマートシティという形で取り組もうとしている。

## ○小川原委員

最後のお話は、非常に建設的な話だと感じた。特に、鳥取市の子育てが全国的に充実しているということであれば、今ワーケーションが流行っていることもあるため、それを武器に若

い世代・子育て世代が鳥取市に集まるようなプロモーションを行い、子どもの教育や学校等に繋がっていけば、住み続けるまちにも繋がっていくと思う。一つの大きな良いテーマだと感じた。

### (3) 農林水産・経済対策について・・・資料3

(説明)

(意見交換)

#### ○小川原委員

スマート農業について、弊社では、実証実験の段階ではあるが、梨栽培の取り組みを進めている。資料P16上段に記載されているが、土壌分析や気象データ、病害虫の発生状況を見える化することによって、今まで専門性が高く、なかなか参入が難しかったところを改善し、いわゆる生産のDXを進めていければと考えている。大事なのは、そのノウハウがデジタル化された後、新たな担い手をどのように誘致するかという部分だと思う。梨栽培のコンソーシアムには、鳥取大学にもご参加いただいているが、鳥取大学の約7割の学生は県外出身者と聞いている。例えば、農学部の学生に、梨農家のスタートアップ的なことを経験していただき、就農の機会のようなものを提供できれば、担い手確保のところまで話が繋がっていくのではないかと。社会実装にあたっては、そういった展開も考えていきたい。また、流通の方もデジタル化を進めることによって、ブランド力が向上した生産物をどのようにPRするかということが課題である。例えば、生産物が新鮮なうちに東京の有名な料理店に直で卸すなど、そういった販路を具体的にプロモーションしていくところまで繋げないといけないのではないかと。システムを入れることが目的になってしまっただけでは良くない。そのあたりを今後考えていかなければいけないと思っている。

#### ■田中農林水産部長

日頃、NTTにはお世話になっている。先ほど分かりやすい説明をしていただき、感謝申し上げます。これからも色々と助けていただきたい。

#### ○影井委員

現在、農業に逆風が吹いており、日々の飼料や燃料の値上げラッシュが続いている。ウクライナが一部輸出を再開したという嬉しいニュースもあるが、まだまだ厳しい現状が続いている。耕作放棄地も増えており、労力不足の問題もある。労力の確保ということで、鳥取いなば農業協同組合独自で、農業人材紹介センター「ワーキングプラザいなば」を開設した。厳しい状況ではあるが、行政と一体となって取り組んでいきたい。販売戦略についても然りであり、農業振興計画を作成し、戦略を練っているところである。

#### ○景下委員

地域経済の取り組みに関して、「鳥取市地域振興チケット」が電子クーポンになった。今ま

では長い行列に並んで紙のチケットを貰っていたが、鳥取市のデジタル化が進み、非常に喜ばしいことだと感じている。コロナ以降、ほとんどの支払いでクレジットカードかQRコード決済を利用している。例えば、やまびこ館や砂の美術館の入場も、電子決済で支払いできるようになっているのか。電子化がもっと広まる展開となっているのかお聞きしたい。

#### ■大野経済観光部長

市内の観光施設等でキャッシュレス化を進めていくことは、早々に取り組んでいくべき課題だと認識している。ただ、一足飛びに全てキャッシュレス化すると、高齢者など対応しきれない方がいらっしゃるため、そのようなデジタルデバイドをどう埋めていくかということも併せて施策として組みながら、少しずつ速やかにキャッシュレス化を進めていきたいと考えている。今回の取り組みは試験的なものであるため、その効果も見ながら次に繋げていきたい。

#### ○児嶋会長

砂の美術館はキャッシュレス化されているか。

#### ■大野経済観光部長

砂の美術館はまだキャッシュレス化していないが、今後検討していきたい。

#### ○武田委員

世界でも有名な砂漠の農業ということで、鳥取大学農学部の中に乾燥地研究センターがあり、メロン栽培等の技術を提供している。それをいち早く導入したのが倉吉市である。倉吉市は、メロンだけでなくスイカや色々な作物を作っており、鳥取県で一番農業収入が多いようだ。鳥取市も砂丘圏を利用して、収入を上げる取り組みをした方が良いと思う。

#### ○児嶋会長

同感である。

#### ○谷口委員

資料P15に農業センサスのグラフがある。上段のグラフを見ると、農業戸数は平成17年度から令和2年度にかけて減少しているが、農業者数は平成27年度から令和2年度にかけて増加している。この理由は何か。また、下段のグラフについて、耕地面積は減少しているが、荒廃農地面積は横ばいとなっている。この理由も教えてほしい。

#### ■田中農林水産部長

まず、上段のグラフの農業者数については、農業センサスの農業者の定義が変わった関係で増えている。平成28年度までは「農業のみに従事された方」、または「農業と兼業の双方に従事しながら農業の従事日数の方が多し世帯」という定義だったが、令和2年度からは、「自営農業に1日でも従事した世帯」という定義が変わった。また、下段のグラフについては、現在耕作されていない農地は、荒廃農地、耕作放棄地、遊休農地の順で、作物の栽培が不可能な農地となっている。ここには荒廃農地のグラフを記載しているが、恐らく遊休農地が変わったからと理解していただけたらと思う。前年までは耕作していたが、何かの事情で耕作をやめて、遊休農地が変わったということである。

## ○谷口委員

担い手不足の解消はなかなか進まないが、食料不足は必ずやってくると思う。農地は一度放置すると駄目になってしまうため、どう継続させるかが課題である。私は農家だが担い手がない。鳥取市だけの課題ではなく、日本の大きな課題だと思うが、そのあたりをどのように考えているか。先ほど、梨の話もあったが、梨栽培は機械の導入ができないため、人海戦術となる。人がいないと梨は作れない。佐治などでは梨農家がどんどん減ってきており、どういう形でサポートしていくかが課題だと思う。また、林業について、木を育てることが課題であるが、木の間伐ができていないため、育っていない。資料には、機械を導入して支援すると記載されているが、果たしてこれで大丈夫だろうか。機械が入れる道が必要だと思うが、林道整備ができていない。まずは機械が入れる山を整備しないといけない。次に、自然エネルギー・再生可能エネルギーについて、鳥取市内に風力発電をつくる話が出ているが、賛否両論あり、地元では反対意見が多いと聞いている。その理由は、木を切ることによって自然環境が悪化すること、また、そのことにより災害が助長されるからである。防災対策が必要だと思うが、民間事業者が防災対策をしてくれるのだろうか。県と市のスタンスはどうか。行政が自然エネルギーを進めるのであれば、行政がしっかり介入しないといけないと思うが、そのあたりの考えについてお伺いしたい。

## ■深澤市長

自然エネルギー・再生可能エネルギーの導入について、今、明治地区・青谷地区等の方で、大型の風力発電事業が進められようとしているが、これについては、行政が直接進めようとしている事業ではなく、民間事業者が環境影響評価・環境アセスメントの手続きを進めている。この環境影響評価の中で、段階に応じて、県を通じて地元市町村の意見が求められる。地権者を含めた地元の皆さんの考えとして、この事業に賛同し進めてもいいのではないかと、あるいは、計画等について問題があるから進めるべきではない等、色んなご意見があることも承知している。関係者の皆さんと直接お話をさせていただいたこともある。鳥取市としてはこの環境影響評価の諸手続きの中で、地元の意見を述べる機会があるため、その時に、地元の状況をしっかり見極めて必要な意見を述べていきたいと思っている。また、再生可能エネルギーについては、2050年ゼロカーボンということで、今国を挙げて、また世界で取り組んでいこうとしており、国の方も2050年ゼロカーボンに至るまでの2030年の目標数値を掲げている。鳥取市も第3期環境基本計画の中で具体的な数字を掲げて取り組んでいこうとしている。これは行政だけでなく、事業者の皆さん、市民の皆さんと一緒に取り組んでいくものであり、それをやらないとなかなか目的通りにはならない。原発の問題もあり、特に我が国においては、エネルギー政策をこれからどう考えていくのか・どう進めていくのかという局面にあると思っている。再生可能エネルギーを段階的に導入していくことは必要であるが、エネルギーのレベルが小さく、日常生活の電力をどう賄うかということと併せ、産業活動をどう考えていくかということにも関わってくる問題である。一つの自治体というよりも、国全体で考えていく大きな問題だと思っている。エネルギー

一問題というのは、環境問題にも直接関係する問題であるため、鳥取市としてもその基本計画・環境計画のような施策をこれから進めていく中で、エネルギー問題についてもこういう考えだということでお示しをさせていただいているところである。この風力発電については、地元の皆さんのご意見やご意向を第一に尊重するという考えである。

### ○西山委員

農業の関係について、先ほど小川原委員もおっしゃられていたが、システムを導入することが目的になってはいけないと思う。担い手支援の取り組みと連動する形で、最初の実証的な部分を支援していくことはとても大事なことだと思う。鳥取市、あるいはその周辺にも魅力的な産物は沢山あると思う。私の知り合いが湖山池のしじみを食べ、大きくてすごく良かったと言っていた。私は「濃丸」というブランドのきのこを食べたことがあり、生産拡大はしていないようだが、とても美味しかった。先ほど、梨の生産が難しくなってくるという話があったが、新しい品種は高い単価で飛ぶように売れ、組み合わせによってかなり違ってくるのではないかと思う。担い手を支援する形で繋げて、こういう新しい取り組みを進めていただきたい。林業に関しては、ロシアの輸出禁止やカナダの生産減少などによりウッドショックと言われ、木材が足りない状況があり、木材の単価が上昇してきている。価格のバランスがとれてくれば、日本の森林資源は貴重な資源になるだろうと思う。経済に関しては、ワーケーションの関係で、全国どこでも仕事をしてもらいたいという採用をNTTで始められると思うが、どういうものか教えてほしい。脱炭素に関しては、環境大学もロードマップを研究している。どういう風に進めるか・どんな収支計画を立てるかというものを作ろうとすると、色んな課題が見えてくる。そういうことを実際にしていけないと前に進まないと思うため、そういう取り組みを見えるようにしていくことが大事だと思う。

### ○小川原委員

先ほどのワーケーションの話について、リモートワークの捉え方だが、これは大きなDXだと考えている。DXということで、トランスフォームしていかなければいけないが、何をトランスフォームするのかというと、今までの会社・組織があって人がいるという考え方から、その人の生産性を最大限高めるための環境として会社は何をすべきかを考えることが、いわゆるDXの考え方だと私は認識している。今日、子育ての話があったが、子育てを非常に大事にする人もおり、その人が最大限能力を発揮できる環境を準備するということがコロナで始まった。ライフワークバランスという言葉があるが、ワークインライフ、生活の中に仕事があるというふうな考え方にトランスフォームすることが大事なことだと思う。その環境が整っていることによって生産性の高い方や志の高い方が集まってくる、こういう流れに変えていくことが大事なポイントだと思う。

### ○野村委員

農業高校の生徒はどれぐらい就農体験をしているか、資料があれば教えてほしい。また、テレビで盛んに移住に関する番組が放送されているが、職について、実際に農業・漁業をするにしても、何年間か給与的なものを出して、その期間に技術を磨き、良ければそのまま住み

着いて農業・漁業に従事するという仕組みもあるようだ。鳥取市の場合は、既にそういったことに取り組みられているのか分からないが、将来的に少しでも活路を見出すような取り組みもやってみられたらどうか。

#### ■田中農林水産部長

農業高校のことに関しては、鳥取市は情報を持っていないため、お答えすることができない。申し訳ない。

#### ○山本委員

地球は温暖化していて、産業革命以降、地球の平均気温が1.5℃上がっている。恐竜時代も含めて、このスピードで気温が上がったことはなく、この200年間で気候そのものが変わってしまっている。先ほど話にあった梨やメロンも気温に左右されると思うが、農業はそれに適用していかなければならず、既に色々されていると思う。そのあたりの中長期的な展望について、次回で良いので教えてほしい。それとは別に、マーケティング的に、二十世紀梨がこれから先も市場として価値があるものになっていくかどうか、売っていく農業ってどういうものなのかということも鳥取市と一緒に考えていければと思う。また、林業について、担い手を確保することも大事だが、木材がどう使われているのか・売れているのかという市場の部分のお話も伺えたらと思う。農業については、タイムラインのスペンを少し長くして聞いてみたいし、売り先・担い手も含めて、そういう広がりについて聞いてみたい。コロナで建て直しということだが、これから先も地球温暖化が進めば感染症が増えていくため、感染症に適応した社会を作っていくのが強みになっていくと思うが、コロナが収まって元に戻るというよりは、コロナがあっても何があっても、より強くなっていくような経済を考え、そういうお金の使い方をできているかということが大事だと思う。「鳥取市地域振興チケット」は今困っている部分への支援であり、すごく大切だと思うが、それだけではなくもう少し中長期のスペンで見て、どんな社会・経済にしていくのかということも、きちんと計画は立てておられると思うが、そこの違いを見たい。再生エネルギーの話については、「林業」と「再エネ」はセットでよく言われるが、私たちが出しているCO2排出量と木の成長速度は全く見合わないため、林業が育ったら温暖化が防止できるというのは難しいと思う。山や土地を守る、その地域を次世代に引き継ぐということはしっかり地域で考えていくべきことだと思っており、鳥取市の風力発電の建設の件で、風力発電・再エネに対する不安が広がったように思うが、風力発電そのものが悪いのではなく、その土地をどう使うかということも海外も含めた大企業の方が先に考えていたのだろうと思う。地域の自然がしっかりあるから再エネが生まれるのであり、地域ごとに自然環境が違う中で、その地域のことをどうしていくかということは自治体や自治会、山主等で一緒に今考えていくことである。再エネを建てる・建てないという話ではなく、山が荒れている・林道がないところからどうしていくかという話し合いを進めていく必要がある。鳥取市の再エネは規模が大きく、お金もたくさん動く。日本全体・世界全体では再エネは喉から手が出るほど欲しいもので、どんどん大企業が買っていくと思う。風力発電をしても鳥取市民がその環境価値を使えないとい

うことになりかねないため、もう少し主体性が必要だと思う。鳥取市にどれくらいお金が落ちるかという感覚で語っていく必要がある。地域で生まれたエネルギーを通じたお金が地域に戻ってくるというのが、経済対策になっていくのではないかと思う。広い目・長い目で見て、どんな計画でお金を呼び込むかということも考えていければ良いと思う。

#### ○児嶋会長

山本さんからたくさん質問があった。次回、まとめて市側から、あるいは文書で回答する。

#### ○綱本委員

新しい可燃物処理施設ができたが、プラスチックについてどういう風に考えているか。むしろプラスチック・ポリエチレン等を利用し、焼却をして、電気エネルギーなり熱エネルギーなりを取り出した方が合理的ではないか。

#### ■深澤市長

今お話いただいたようなことを、実はずっと以前から議論し検討してきたところである。家庭ごみの中にプラスチックも混ぜて、分別をせずに一緒に燃やし、熱効率を高めて電気を取り出すという方法もエネルギーの再利用ということで、そちらの方が合理的ではないかという話も専門の先生方の中でもかなりあった。ただ、鳥取市や東部圏域として、今まで不燃物・可燃物を分別・収集をして再利用していく方針で進めてきたため、当面はプラスチックも燃やさないで分別をしたらどうかという結論になった。ただ、やはり一方では、特に小さなプラスチックを綺麗に洗って分別することにかかるエネルギーと比べると、混ぜて焼いた方が合理的でエネルギーも少なく済むという考え方も正しいと思う。これについては、もう少し市民の皆さんと一緒にになって議論し、その方向性を出していくというような問題ではないかと思っている。特に、ごみの焼却というのは、エネルギープラントとして非常に安定した電気を作ることができるため、そのあたりの議論も、この再生可能エネルギーの話の中でしっかりと市民の皆さんと一緒に進めていかなければならないと考えている。

#### ○児嶋会長

最後に、西垣副会長にまとめをお願いしたい。

#### ○西垣副会長

私は観光コンベンション協会の会長を務めているが、建設会社の社長もしている。先日、男性職員から1ヶ月の育児休暇の申請があった。これまでは1週間が最大で、1ヶ月単位は初めてだった。女性の方に向けては、アプリなど様々な形で子育て支援がとても充実していることは確認できたが、途中でご意見があったように、男性の方ももう少しそのアプリの中に関わっていく必要があるのではないかということ、また、子育ては、社会に出るまで家庭の責任であるとするれば、この地域を背負って立つ若者を家庭という単位で育てていくための連続的な支援を行い、将来の安心をそれぞれの家庭に伝えていけることができればいいのではないかと思う。そこに地域や企業など、子育てに関わるべき存在がもう少し加わるような仕組みが今後出来ていけば、家庭や地域・企業が子育てを通じてこの地域と深く繋がっていけるのではないかと改めて感じた。また、農林水産・経済対策に関しても、やはり子育て

てを安心して行って暮らしていけるような地域づくりに全て繋がってくるだろうなと思っている。私が今仕事をしている会社でもIT化が進んでいく中で、ベテランの職人たちがITに対してアレルギー反応を示し、次の世代とベテラン世代が上手く繋がっていないというようなことも現実的にはあると思うため、そういったものが上手く繋がっていけば、鳥取市がもっと子育てから仕事まで様々な形で繋がっていけるのではないかと改めて感じた。

#### ■深澤市長

長時間にわたり、熱心にご議論いただき、感謝申し上げます。エネルギー問題や感染症問題、当面の課題への対応や中長期的な展望を持つべきではないかなど、示唆に富むご意見をいただきました。私も全くその通りだと思ふ。新型コロナウイルス感染症にしっかりと対応していくということと、コロナが収束した暁にどういった社会になっていくのかということもしっかり想像しながら、今やっておくべきことをやることが我々に求められていると考えている。そのことをまとめたのが、昨年10月に策定した新型コロナウイルス感染症からの復興・再生プラン、通称「明るい未来プラン」である。どんどん状況が変わっていくため、これも少しずつ見直して、現実・実態に合うようなものに直しながら、しっかりと進めて参りたい。今日は本当に色々ご議論いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。